

Safety and Environment Center for Petroleum
Development

SEC ニュース

一般財団法人 エンジニアリング協会

石油開発環境安全センター

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-18-19

(虎ノ門マリンビル 10 階)

TEL(03)5405-7205/FAX(03)5405-8201

URL: <http://www.ena.or.jp/SEC/>

第 85 号 / 2013. 4

- 委員会・部会報告
 - ・ 第 2 回企画委員会
 - ・ 第 4 回企画技術部会
- JKA 競輪補助事業
「地熱発電の技術・環境課題の調査研究」
- 平成 25 年度重点事業について
- 平成 25 年度事務局体制について
- 会員の広場
 - ・ 油流出ワークショップ参加報告
- 会員の皆様へのお知らせ
 - ・ 新規会員のご紹介
 - ・ ビジネス講演会・サロ・ド・ワ開催のお知らせ
 - ・ 2013 成果発表会のお知らせ(予告)

■委員会・部会 報告■

□ 平成 24 年度第 2 回企画委員会

日時：3 月 7 日(木) 15：30～17：30

議事：

前野専務理事の挨拶に続き、経済産業省鉱山・火薬類監理官付沼倉課長補佐からご来賓の挨拶を頂いた。議題 1) ～ 2) について事務局より報告がなされた。議題 3) ～ 4) について事務局より内容説明が行われ審議した。

- 1) 平成 24 年度企画技術部会活動と平成 25 活動計画 (現状報告)
 - ① SEC テーマ検討会
 - ② 「第 I 分科会」
 - ③ 「第 III 分科会」
- 2) 平成 24 年度受託事業・補助事業活動概要および平成 25 年度事業実行計画 (現状報告)
 - ① 海洋掘採施設環境影響調査
 - ② 地熱開発・発電に関する技術・環境課題の調査研究 (JKA 競輪補助事業)
 - ③ メタンハイドレート開発に係わる海洋生態系への影響評価のための基礎研究
 - ④ 大水深海底鉱山保安対策調査
 - ⑤ シェールガス開発に係わる環境影響調査検討 (JKA 競輪補助事業)
- 3) 平成 25 年度事業計画(案)および体制 (審議項目 1)
- 4) 平成 24 年度決算見込および平成 25 年度予算 (案) (審議項目 2)

・ 審議項目 1 は本委員会で以下の条件のもと承認された。

【条件】 調査研究の受託事業範囲が、海洋資源開発に限定されている、陸上の事業も含まれるように変更すること。 「海洋資源開発⇒エネルギー・資源開発」

- ・審議項目2は本委員会で以下の条件のもと承認された。

【条件】 共通経費（SEC分）については、現予算を越えない事。

また、事業が受注できない場合など予算が大幅に変更となる場合は次回企画委員会で報告すること。

上記条件のもとに企画会議、理事会に付議されることとなった。

□ 平成 24 年度第 4 回企画技術部会

日時：2月13日(水) 15:30～17:30

議事

中村所長の挨拶ののち堀江部会長により議事進行された。議題(1)について事務局より報告がなされ、(2)、(3)、(4)については審議された。

- (1) 平成 24 年度受託事業・補助事業および自主事業活動報告 (報告)
 - 1) 受託事業、補助事業活動報告
 - ① メタンハイドレート開発に係わる海洋生態系への影響評価のための基礎研究
 - ② 海洋掘採施設環境影響調査
 - ③ 地熱開発・発電に関する技術・環境課題の調査研究 (JKA 競輪補助事業)
 - 2) 自主事業活動状況報告
 - ① 第 I 分科会
 - ② SEC テーマ検討会
- (2) 平成 25 年度事業計画 (案) (審議)
- (3) 平成 24 年度決算見込み (案) および平成 25 年度予算 (案) (審議)
- (4) 平成 25 年度サロン・ド・エナ講演候補について (審議)

(2) 事業計画 (案) および (3) 予算 (案) については審議の結果、承認された。また (4) サロン・ド・エナ講演候補者については産総研成田氏を第一候補として調整することとなった。

本部会で承認された上記 (2)、(3) は企画委員会に付議されることとなった。

■ JKA 競輪補助事業「地熱発電の技術・環境課題の調査研究」 ■

この事業は競輪の補助を受けて実施しています

当センターは平成 24 年度、地熱発電所建設の促進に寄与する環境影響評価への対応策等を検討することを目的に、JKA 競輪補助事業の「地熱発電の技術・環境課題の調査研究」を実施しました。

実施体制は、学識経験者を中心とした地熱発電研究委員会と賛助会員を中心にした地熱発電環境リスク調査 WG であり、調査 WG で実質的な調査研究を行い、研究委員会と調査 WG の合同会議で調査研究内容の検討・協議を行う形式で調査研究を進めてきました。平成 24 年 6 月 1 日の第 1 回研究委員会・第 1 回調査 WG から平成 25 年 3 月 11 日の第 4 回研究委員会・第 11 回調査 WG を経て、成果報告書は完成し、本調査研究を完了致しました。研究委員会委員、調査 WG 委員および関係各位のご尽力に深く感謝いたします。

報告書には、地熱発電所建設に係る法的規制や環境アセスメント手続き、国内外の既設事例の環境対策や国内計画事案の進捗状況、環境リスクに対する技術的対応策と地域共生方策

および環境省・優良事例5条件に対する環境ガイドライン骨子案の提案内容を纏めています。この調査研究成果が、地熱発電所建設等に関与される方々に資することを期待し、今後、調査研究成果の普及展開をしていくつもりです。

■平成25年度SECの重点事業について ■

1) 受託事業の継続実施

- ・メタンハイドレート開発環境影響評価事業の継続獲得
平成13年度より継続して受託。日本のメタンハイドレート開発促進に寄与中。
- ・大水深海底鉱山保安対策事業の新規獲得
H24年度は、第I分科会で賛助会員と内容を議論中。H25年度受託に向け提案内容吟味中。

2) 事業獲得に向けた自主活動の推進

平成24年度発足させたテーマ検討会にて賛助会員ニーズに合致した事業を検討。自主活動で深掘りして受託に向けた提案を作成する。

3) ENAA横断プロジェクトの創出

東北復興プロジェクト、地熱推進プロジェクトのようなENAA横断的プロジェクトを立案。

地球温暖化対策と油・ガス回収率向上という異質のものを組み合わせたハイブリッドプラン(CCS-EOR)、スピルオイル検討等。

■平成25年度SECの体制について ■

4月1日付けでSECメンバーの異動がありました。

新たな体制の下でエンジニアリング産業の発展のために努力してまいりますので、皆様のご指導ご協力を宜しくお願い申し上げます。

1. 新任

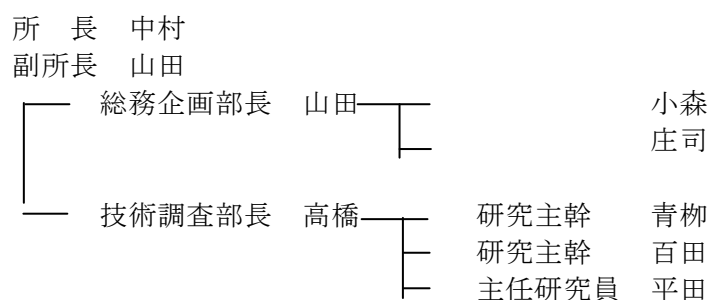
技術調査部長 高橋康夫 国際石油開発帝石から

2. 退任

技術調査部長 畠山 孝 国際石油開発帝石へ復職
技術調査部 研究主幹 根田 榮 ご退職

《体制図》

石油開発環境安全センター



■ 事務局内異動 ■

□ 退任の挨拶

・ 島山 孝

在籍期間3年間は諸先輩に比べると短い期間でしたが、SECをご支援下さった皆様には大変お世話になりました。心から御礼を申し上げます。在籍中には、ENAA組織改革、東北地方太平洋沖地震、ENAA事務所移転など慌ただしい出来事あり、あっという間の3年間でしたが、大変貴重な経験をさせて戴きました。最後になりますが、SECには今後ともご支援を戴けるよう宜しくお願い申し上げます。

□ 退職のご報告

・ 根田 榮

平成13年7月よりSECの戦力として海洋掘採施設環境影響調査事業等を担当され、ご活躍いただきました根田氏が、3月をもって退職されました。

□ 新任の挨拶

・ 高橋康夫

国際石油開発帝石(株)より出向してまいりました、高橋康夫と申します。元々は旧帝国石油の生産部門にいましたが、近年はHSEを主に担当しており、平成19年から23年まではJOGMECに出向し、HSE審査業務に携わってまいりました。今後はSECの一員として、早く業務に慣れ、会員各位のご意見を賜りながら、SECの業務遂行に努めたいと考えております。皆さまからのご指導ご鞭撻を、よろしくお願いいたします。

□ 事務局移動の挨拶

・ 中村裕己

昨年2月1日付けでSECの一員となり、あっという間の一年でした。短い間ではありましたが、お世話になり、大変ありがとうございました。皆様との出会いを大切にしていきたいと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。

・ 小森律子

はじめまして。技術部より移動してまいりました小森と申します。長年技術部に所属してまいりましたので、石油センターへの移動は新入社員と同じ気持ちで、不安で一杯です。会員の皆様にご迷惑をお掛けしないよう、皆様に助けをいただきながら頑張っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

■ 会員の広場 ■ (参加した講演会、学会、シンポジウム等)

【石油連盟主催：油流出ワークショップ参加報告】

平成 24 年度の油流出ワークショップは、平成 25 年 3 月 14 日(木)、経団連会館ホールにて開催されました。主催者の石油連盟は、海洋における大規模油流出を主要議題にして、国際会議(2 日間)とワークショップ(1 日間)を隔年で開催していますが、今年度はワークショップ開催の年に当たります。近年の議題は、平成 22 年に起きたメキシコ湾における油流出事故に関する演題が多数を占めています。

この度の主な講演議題は以下の通りでした。

- ・大規模事故における補償マネジメント
- ・海底油井事故への国際的対応の強化に向けた共同プロジェクトの紹介
- ・Deepwater-Horizon 事故から得た油処理剤の使用に関する教訓
- ・Deepwater-Horizon、Montara、その他の大規模海洋事故後のオーストラリア国家計画の見直し
- ・Vessel of Opportunity (臨時支援船) の統合

メキシコ湾事故後、海洋資源開発を進める企業連合あるいは国々において、大規模油流出対策が進んでいる現状の一部を把握することが出来て非常に有意義でした。しかしながら、対応策によっては必要な資金が大規模になると想定され、一企業が対応できる範囲を超えられることから、海洋資源開発を進める上で国の支援は必要不可欠になると考えられます。

(記：青柳 敏行)

■ 会員の皆様へのお知らせ ■

□新規会員のご紹介

会社名 デット ノルスケ ベリタス エーエス

業務内容：DNV はノルウェー・オスロに本部を置く自主独立団体で、140 年に渡るリスクマネジメントの先駆的企業として知られ、認証サービス・船級サービス・アセスメントサービスを提供する第三者機関。

所在地 神奈川県横浜市桜木町 1-1-8 日石横浜ビル

代表者 ヨハンペター・トゥトゥーレン

入会日 平成 25 年 4 月 1 日

□第 46 回ビジネス講演会

日時 平成 25 年 5 月 8 日(水) 10:30~12:00

講師 鈴木 亮 様

日本経済新聞 編集委員

テーマ 「アベノミクス本格稼働 どうなる日本経済と株式相場」

鈴木講師は、東京本社編集局証券部、兜町記者クラブキャップ、欧州総局(ロンドン)駐在特派員、日経金融新聞、日経マネーでのご要職を経て、本年 4 月に日本経済新聞編集委員に就かれ、国内外の金融・証券分野の第一人者です。

今回は、「アベノミクス本格稼働 どうなる日本経済と株式相場」というテーマでご講演をいただきます。

以下はご講演の概要です。

「日銀も新陣容となり、アベノミクスが本格稼働し、円安の是正、株高など効果はすでに出始めている中、本丸はこれからだ。3本の矢のうちの3本目、成長戦略をいかに実現するか。勝負はここだ。規制緩和などを通じて、新たな投資を呼び込み、新しい産業を育てることができるかどうか。外国人投資家もここに注目している。成長戦略を具現化できれば、日本株の上げ相場は息の長いものになる可能性が高い。」

経営者層、経営企画、財務関連部門の方はもちろん、会員各社の多くの皆様方にもお聞きいただければ幸いです。

お申込みは、ホームページよりお願い致します。 <http://www.ena.or.jp/>

□第347回サロン・ド・エナ

日 時：平成25年6月19日（水）15：30～17：00

テーマ：「メタンハイドレート資源開発の現状と今後の展開」

講 師：成田 英夫 様

独立行政法人 産業技術総合研究所 メタンハイドレート研究センター長

概 要：わが国の天然ガス消費は、東日本大震災以降大幅に増加しており、2012年1月～12月の液化天然ガス輸入量は1200億 m^3 を超え、輸入総額は6兆円に達した。天然ガスは、世界的な燃料の低炭素化の潮流の中、その長期的な安定供給の確保の重要性が高まっている。このような情勢下、わが国の排他的経済水域内に賦存しているメタンハイドレートについて、新たな天然ガス資源としての可能性評価と商業的産出のための技術整備に向けたプロジェクトが実施されている。その経済的な天然ガス生産技術が確立された場合、わが国にとって、天然ガスの長期的な安定供給、自給率の向上などの直接的効果だけでなく、いわゆる地政学的な状況を変化させることから、資源外交に与える効果も少なくないと見られる。本講演では、メタンハイドレート資源開発の特徴、生産手法、これまで取り組まれた技術基盤の整備状況、今後解決すべき課題、将来の展開および今年に実施された海洋産出試験の概要等について紹介すると共に、天然ガスの輸送・貯蔵、ヒートポンプ、冷熱利用、ガス分離などの分野における新産業創出に向けたガスハイドレート機能活用技術について言及する。

なお、お申し込みは、ENAAホームページ「サロン・ド・エナ案内」からお願いいたします。
(<http://www.ena.or.jp>)

□2013 成果発表会のお知らせ

2013 成果発表会を7月4日(木)ENAA 本部、5日(金)石油センター/地下センターで2日間を予定しております。詳細は決定次第HPに掲載致します。